ド級編隊エグゼロス
H×EROS
きただりょうま
12
JUMP COMICS SQ.

# H×EROS

# Characters

**H×EROS** EROSをHネルギーに変え、キセイ蟲と戦うヒーローチーム。

HXEWHITE

**白雪舞姫**

エグゼホワイト

ドジで特技がない事を気にしているが、内に秘めたEROSは人一倍。

HXEPINK

**桃園百花**

エグゼピンク

姉への対抗心から、ヒーローへの誘いを受けた。烈人の雲母への気持ちに気付く。

HXEYELLOW

**星乃雲母**

エグゼイエロー

幼い頃のトラウマで、エロに拒否反応を示す。烈人に小学生の時の告白の返事をすると約束した。

HXERED

**炎城烈人**

エグゼレッド

幼馴染の雲母を変えてしまったキセイ蟲が許せなくて、ヒーローになる。雲母の事が好き。

# Story

地球はキセイ蟲による侵略を受け、かつてない危機に瀕していた。しかし、そんな敵と日夜戦い続ける少年少女の姿があった。彼らの名はH×EROS──。一度は撃退したキセイ姫が、転校生として烈人たちの学校へやって来た!? 彼女は繁殖期前のHネルギーを補給するために、烈人を誘惑し始める。そんな中、Hネルギーを鍛えるためのサイタマ支部、トーキョー支部合同の合宿が行われる。合宿期間中に一番高い結合Hネルギーを記録したペアが、対キセイ姫の主戦力となる事が決まり、烈人と雲母は最高値を叩き出し、作戦に臨む事となった!

**庵野 丈**

地球防衛隊サイタマ支部HERO課、課長。
烈人の叔父。

**チャチャ**

キセイ蟲の王女。Hネルギーを高める体質のため、仲間から疎外されていた。

**女王キセイ蟲**

キセイ蟲を統べる女王。烈人と雲母がHネルギーを提供する事を条件に停戦を申し出る。

**キセイ姫**

キセイ蟲第一王女。繁殖用に烈人のHネルギーを狙う。

HXEBLUE

**天空寺 宙**

エグゼブルー

Hな漫画を描くのが趣味。XEROスーツのデザインを担当した。

contents
HXEROS

# 第52話 本当の雲母

ヒュンッ

大丈夫か
星乃…？
ええ
来たぞっ

結合Hネルギー解放──
ボッ

!?
やっぱり
Hネルギーが効いていない…!?

じゃあね
楽しかったよ

戦闘不能
ザザザーッ
また駄目だったか…
カチャ

星乃がもっとHネルギー出さないとバランスが取れないだろ！

わかってるわよ…

わかってるけど溜まってない物は仕方ないじゃない…！

スッ
どこ行くんだ？
用は済んだし帰るのよ

一週間前――
ただいまー
ぼふっ
はー やっと合宿終わったー
これで久々に一人でゆっくり出来る…
合宿試験突破おめでとーっ！
そういえばいくら一人でもコレが居るんだった…

でも喜んでるとこ悪いけど…果たして本当にあなたが一番だったのかな？

！

どういう意味よ…？

あの合宿の中でまだれっくんとHネルギーの測定してない人が居たんじゃない？

それってもしかして…

そ 私

私と戦ってもないのに勝ったと言えるのかなー？

そういえば
あの時のれっくんも
Hネルギー
凄かったしねー
な…何よ
あの時って…

言って
なかったっけ?
この前
れっくんと
深夜デート
したこと
ちょっ!?
人の身体で
勝手に何
やってんのよ!

じゃあ聞くけど
もし私とだったら
合宿の結果は もっと
良かったと思わない?
それは…
…でも確かに
黒雲母の方が
こういうこと
得意そうだし…

本当に私が炎城とペアで良いのかな…

なんで俺は星乃に対してもっとこう素直に出来ないんだ…

いや…前から決めてたはずだろ…

星乃とのHネルギーが一番だったら星乃に告白するって…

それに…

ちょうど来週はクリスマスなんだから

おっす
星乃
……
おはよ…
最近 朝は
冷えるよなー
そっ
そうね…
………
やべぇ…
クリスマスの予定
聞こうにも会話が
全く弾まない…
そうだ…
私 今日
日直だから
先行くわね
えっ？

すーーーん

こ…これは思ってたより深刻かもしれないな…

これはもう最終手段に移るしかない…

朝名さん

どうしたの炎城くん？
雲母なら日直で居ないけど
いや今日は朝名さんに話があるんだ
！
炎城と夕奈…？なんか珍しいわね
朝名さんってさクリスマスに予定あったりする？

!?

ヨロヨロッ…
嘘…まさかそんなことって…

はーっ

あのね 炎城くん…その言い方だと私を誘ってるように聞こえちゃうよ？
いや…別にそういう訳じゃ…

わかってるって
要は私たちと雲母で予定があるかが聞きたいんでしょ？
ギクッ!!

それなら
大丈夫
私は先輩と
予定が入ってるし
雲母も多分
用はないんじゃ
ない？
ほっ

それにしても
やっとって
感じだね
炎城くんも
なんだよ
やっとって
…？

気付かない
とでも
思ってたの？
雲母に
対する気持ち

よければ
私が予定
聞いとこうか？
いや…
それくらいは
自分で…

そっか
でも
頑張ってね
炎城くん

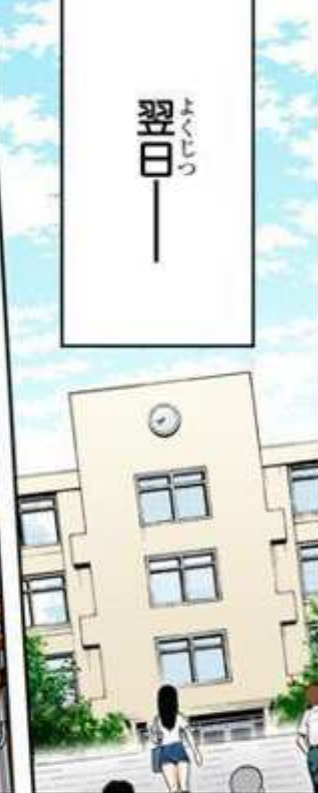
あ
おかえり
お兄ちゃん

どうしたの？
ため息なんて
吐いちゃって

なんだって
いいだろ…

最近なんか
ちょっと
気まずくてな…
なんていうか
避けられてる
っていうか
でもお兄ちゃん 昔は
もっと雲母ちゃんと
仲良かったよね？
まぁ…
あれが仲が良いと
言えるか
わからないけど…
それでもお兄ちゃんは
その頃から雲母ちゃんの
ことが好きな訳でしょ？
ブッ
いや別に
好きって
いうか…
いや もう
バレてる
から

でも結局どっちが好きなの？
今の雲母ちゃんと
昔の雲母ちゃん
どっちが好きかなんて
そんなの考えたこともなかったな…

たとえ性格が変わろうが
時折みせる笑顔は
昔から全く変わってないんだから…
がばっ
決めた…
明日 絶対星乃にクリスマスの予定を聞く…
出来なければ俺は一生このままだ…！

翌日──
ドキ
ドキ
おはよー
遅刻だよー
ヒメちゃんー
いやー
繁殖期だから
食欲が収まらなく
って休んじゃった
!?

なんでキセイ姫が
学校に　また
来てるんだ…!?
それに白昼堂々
現れるなんて…
あー
ヒメチャン
心配したよー
ごめんねー
何か考えが
あるのか…?
だがもう
逃す訳には
いかない…!
ガタ
ヒメさん

ちょっといいか？

えー何何？もしかしたら告白ー？

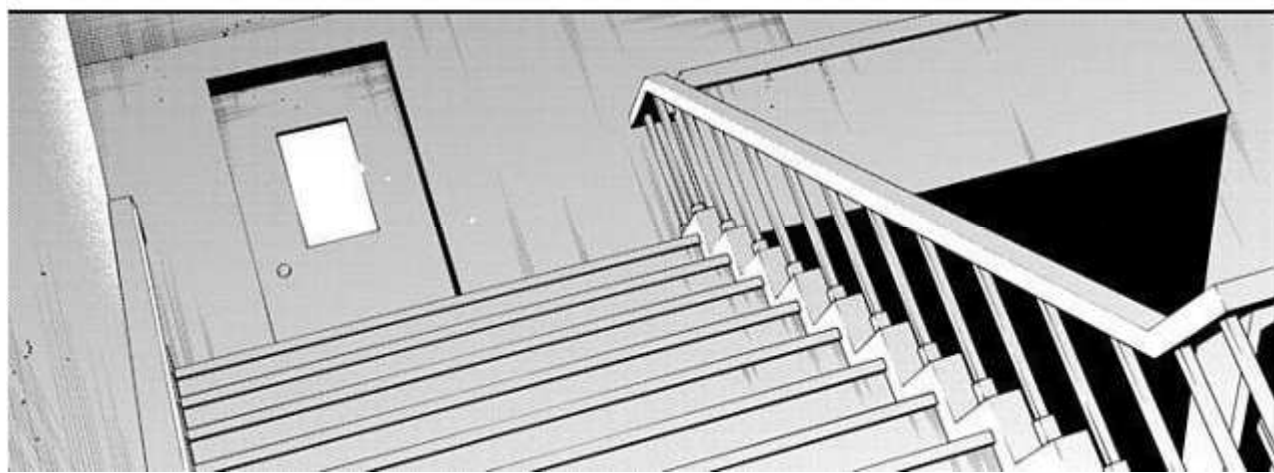
いいからちょっと来い…！

ザワザワ

行くぞ星乃…

……

チラッ

スッ

良くここに来れたなキセイ姫…
言ったでしょ？
姫は極上のHネルギーを求めてるって
さあチャンスよ…
さあ姫にあなた達二人の結合Hネルギーとやらを食らわせなさい

舐めやがって…！

星乃…
訓練では上手くいかなかったけど
今がチャンスだ

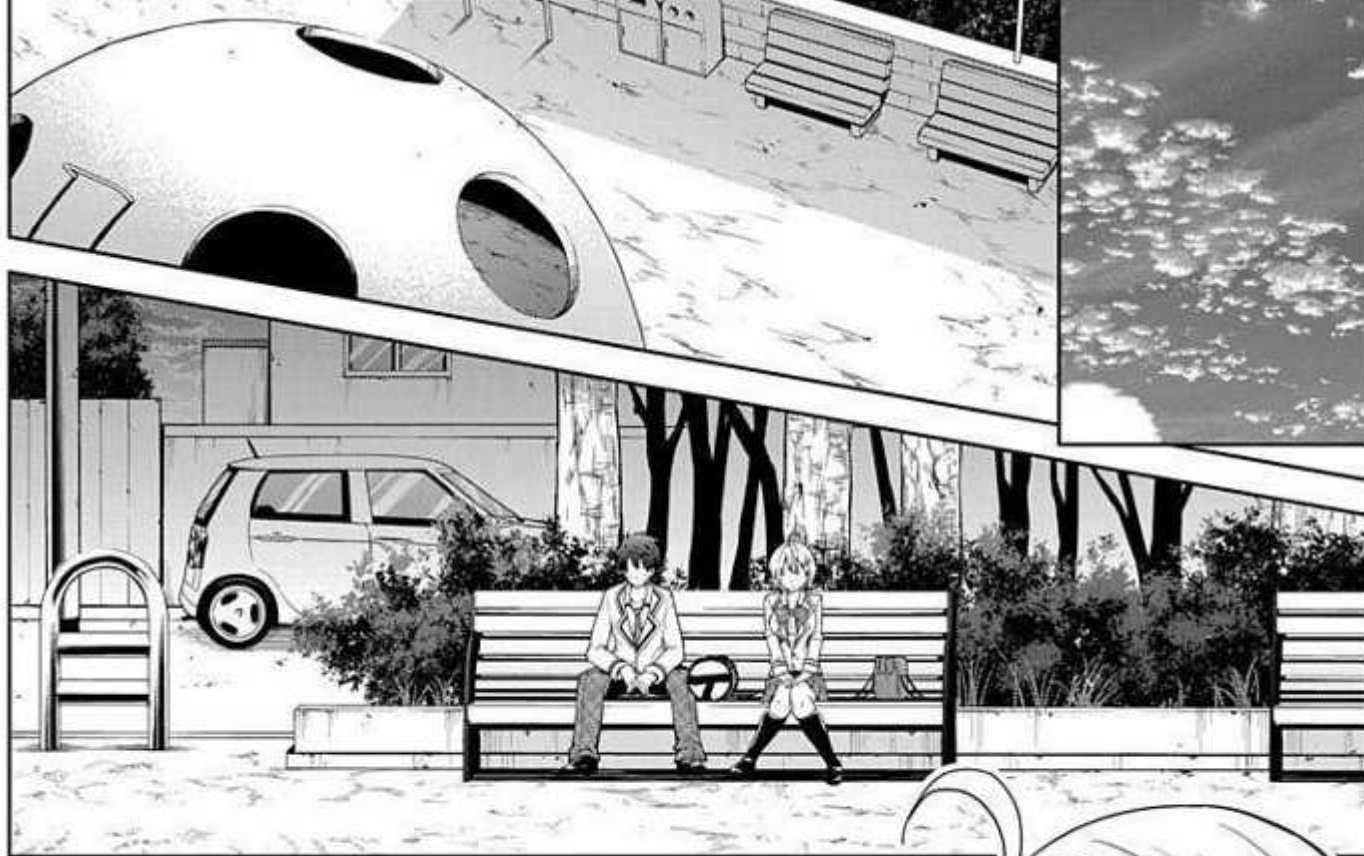
一か八かやるぞ！

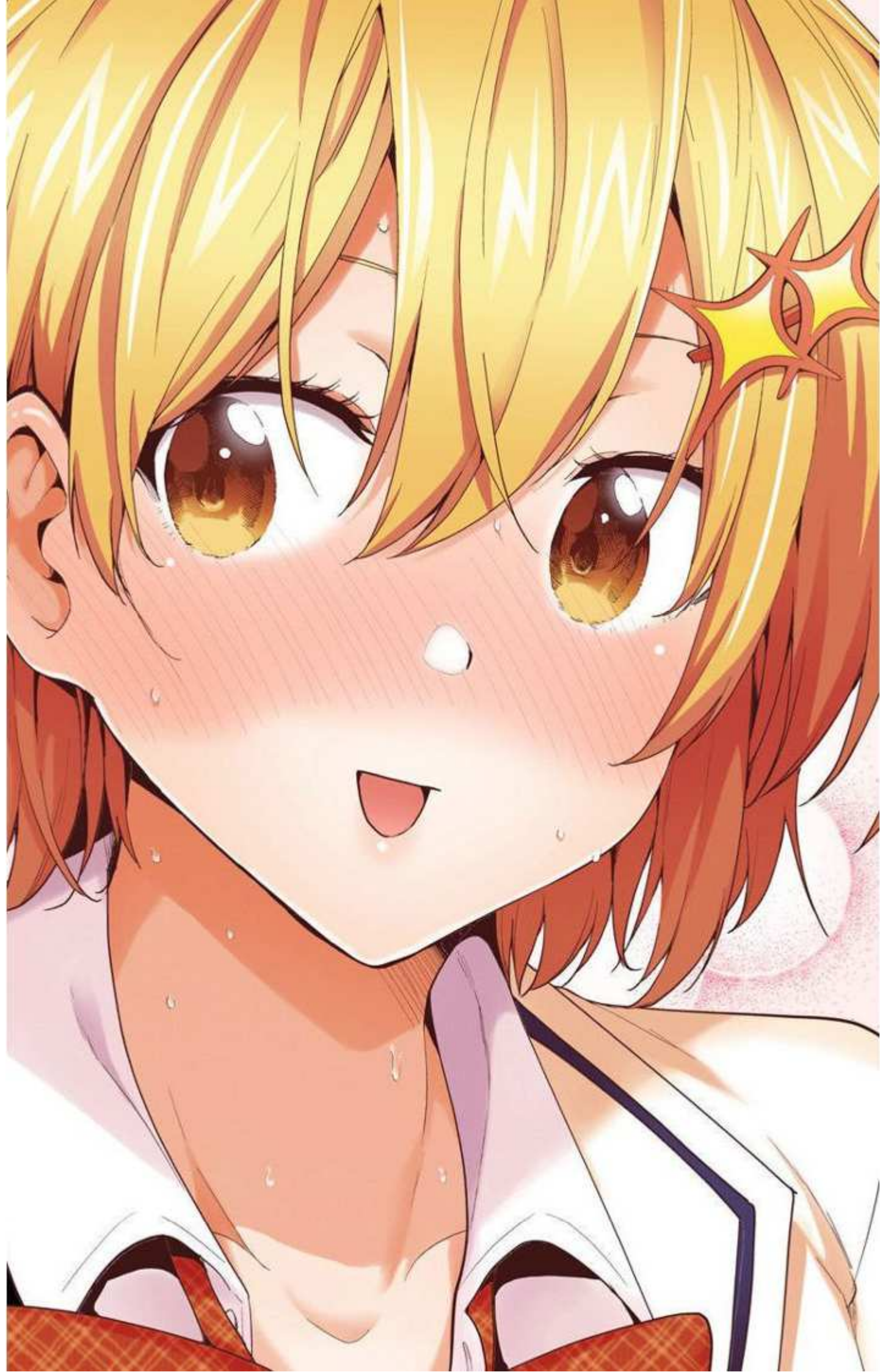
ぱあああっ

……何それ……？

しょぼいHネルギーなんて食べ飽きてるってのに
姫の見込み違いだったかな？

そんなんで
姫を止められる
とでも？
ドゴォオッ
……ま…
待て…
どさっ

ごめん…私の所為でキセイ姫を逃しちゃって…
星乃の所為なんかじゃねーよ…
俺が一人でもあいつを倒せるくらい強かったら…
………
そのことなんだけど

私…やっぱり炎城とのコンビは無理かもしれない…
！
どうして…計測でも一番相性が良いって…
でも…今の気持ちのままじゃ絶対に勝てないと思うから…
ギュッ

わかった…
星乃がそこまで言うなら…
でも最後に理由だけ教えてくれ
そうじゃないと納得できない…！
それは…
言えないってことはやっぱり俺の所為なのか？
それは…違う…
じゃあなんで…
だって他にもまだまだ測定してない人だらけじゃない…
私がベストだなんて決まった訳じゃないんだし…
ばっ

もし他にもっと適任な人が居たら…！

……そんなの関係ない

それでも俺は星乃と組みたいんだ…

なんで…

なんでそんなこと言うのよ…!?

えっ

わ…私（わたし）…

今汗すごくない?

どくどく

確かに!!

つっつ

ちょっと私一旦帰ってシャワー浴びて来るっ!!

ええっ!? どんなタイミング!?

だっ

マジ…?

どうしよう
どうしようっ…
まさかこんな日が来るなんて…
でもすっごい嬉しい

あああ〜〜〜〜っ!!
言っちまった〜〜〜!!!

一体 答えはどっちなんだ…!?
!
ヴヴヴッ

15:42
← 星乃
後で家に来て
15:42

ただいまっ
シャワァァァ
アァッ
ふふっ…
これで
わかったわよね
黒雲母…
残念ながら
私の勝ちよ…

って あれ…
居ないの…？

居るわよ
ちゃんと

というより
遅いのよ
これで
心おきなく
返して
もらえるわ

それって
どういう…

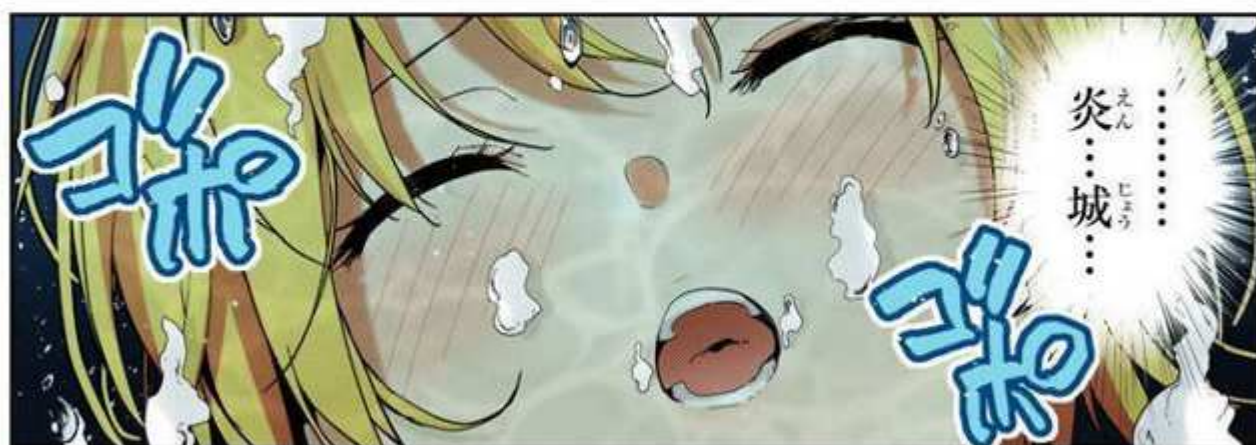
前に言った
でしょ？
私の目的は
私自身が
れっくんと結婚
することだって
私の目的は
私とれっくんが
結ばれること

ドボンッ

……炎……城……
ゴポ
ゴポ

Extra Gallery

番外ギャラリー

第53話

しんしん

ねえ
れっくん

あなたの好きな人が
蚊に刺されてたと
したらさ

どこを刺されて
いたと思う？

なんだよ
急に…

うーん それじゃあ…
やっぱり 首筋とか？
へー そんな所なんだー
で…これが 何なんだよ？
その場所は自分が キスしたいと 思っている 部分だって
ブッ
全く 首筋なんて エロエロだなー れっくんは
それは こんな問題出す お前の方だろ!?

それじゃあ第2問

あなたは信号待ちをしています

歩道の向こうで待っている人の数は？

それがあなたの将来付き合う人の人数です

ドキッ

エロエロの癖に一途なんだね

うっ…うるせーよ…！

ふーん…一人なんだ…
それじゃあ最後に
飼育小屋でウサギが遊んでいます
オスとメスが何匹遊んでいますか？
10匹くらい？
ウサギ…

それで…今度は何の数なんだ？
……これは あなたが欲しいと思う こ…子供の数です
ポッ
そんなに欲しいなんて…
やっぱエロエロなんだから…
？なんで子供を多く作るとエロエロなんだ？
あーもう子供なんだからっ！
えっ？どういうこと!?

# 第53話

# 雲母VS黒雲母

！
ぎゅっ
それじゃあ早く行こ？
行くってどこに…
うん…でもなんだか居ても立っても居られなくて…

それは着いてからのお楽しみ

なんなんだこの状況は…

HOTEL RESORT

ラブホテル——!?

星乃じゃ…
…ない…？
ドサッ
くっ…
ぎしっ
ぐうううっ

ちょっと これ
なんの真似よ
黒雲母!?

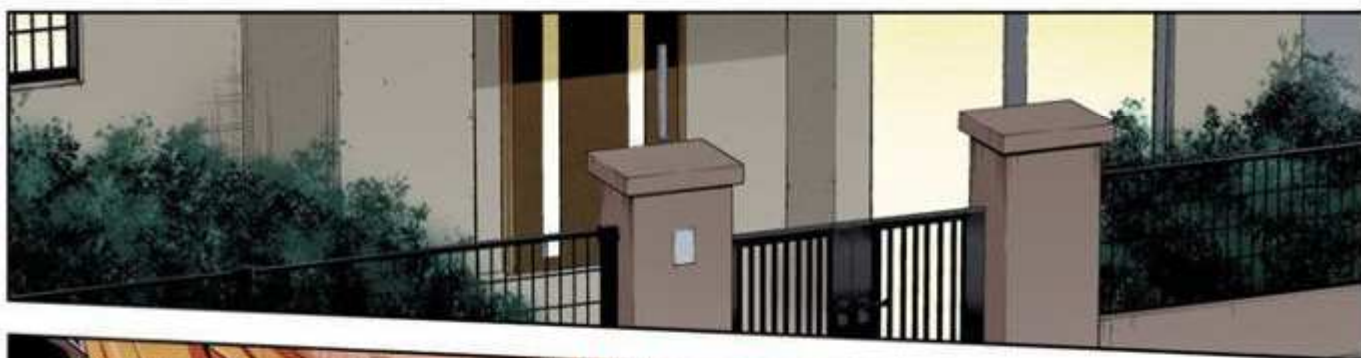
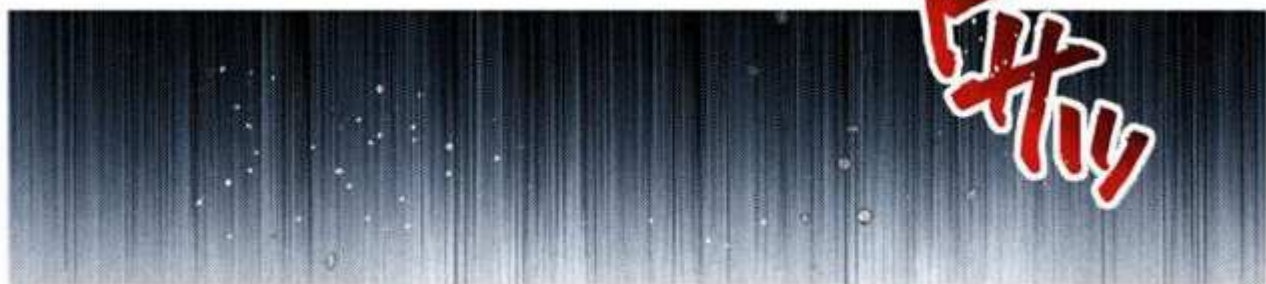
解き
なさいっ!

んー
久々の外は
やっぱり気持ち
いいわねー

ーダメ…
びくとも
しない…

感謝は
してるわ…

お陰で
れっくんと
結ばれるん
だから

っ…

そりゃあHネルギーは種としての生命力なんでしょ？

私の方がHネルギーが上だからじゃない？

!?

つまり私黒雲母の方が雲母より生命力が強いってこと

私としてはいつでも乗っ取れたけど
れっくんに告白されたこのタイミングは逃す訳にはいかないからね
はたして本当にそうかしらね…?
……
何か言った?
いつでも乗っ取れたならさっさと自分から告白すればよかったのに…
なんでそうしなかったのかしら…?

結局 その声は
私にしか聞こえ
ないんだから

ぐっ…

炎城に返事を
伝えるまでは
絶対に諦めたり
なんかしない…！

それにしても れっくん 遅いわね…
こっちは もう準備万端 なのに…
その服 ちょっと露出 多過ぎじゃ ない…？

そう？ これくらい 普通じゃない？
全く まだ子供 なんだから…

でも確かに 遅いわね 炎城の奴…

ああ烈人は今日まだ見てないな
先生にも何の連絡もないみたいだし
星乃なら知ってると思ったけど一体何してるんだアイツは…
そっか…

でも教えてくれてありがとね
ポンッ
鳥越 伊達

ドキッ

ちょっと黒雲母…
アンタ炎城のこと心配じゃないの…!?
心配に決まってるでしょ…!
だから今からサイタマ支部に行こうとしてるんじゃない
!

れっくんがキセイ姫に捕まったってホント!?

ばんっ

！

今 雲母れっくんって…

雲母ちゃんもそんな所あるなんて意外…

別に良いじゃないですか

それだけ炎城さんが心配ってことなんですから

それでれっくんは無事なのおじさん!?

……

それが局員の調べによると

どうやら昨日の夜雲母くんと一緒にホテル街に消えていく所を目撃されているらしい

へ？

じっ

雲母…まさか自分…

いやいや私じゃないからっ！

でもそれがわかってるなら早く探し出してキセイ姫を倒さないと…！
そうね…
見つけた所であなた達に私の娘が倒せるのかしら？
女王キセイ蟲…!?

あなた達エグゼロスを見込んで姫の対処を任せたっていうのに
あの一番期待していた雄を拉致されるなんて期待はずれだったみたいね
いっそのことこの私が説得に行きましょうか？
母上…
この私が弱いって？
聞き捨てならないわね

その通りよ

今のあなた達のHネルギーなんかじゃ姫の食欲に遠く及ばないわ

それじゃあ試してみる？

表に出なさい

なんだか今日の雲母ちゃん変じゃない？

そうですね…

はぁっ
はぁっ

なんで…!?

私の方が雲母より
Hネルギーが
強いはずなのに…

はーっ…

あの時とは
まるで別人ね

前は素質は
あるのに
それを活かせて
なかったけど

今の貴方は
まるで真逆

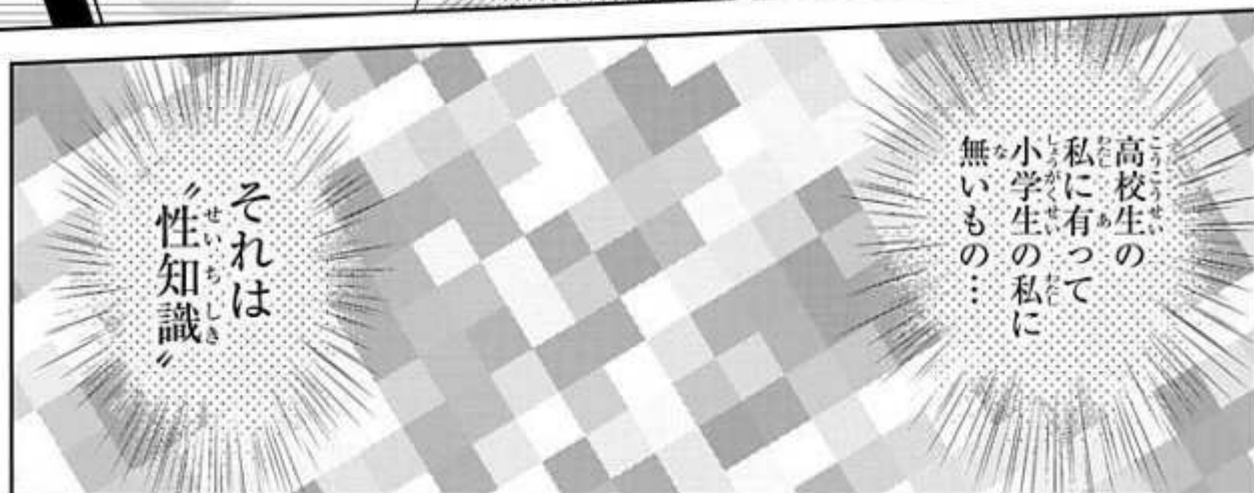
素質に自惚れて
恥じらいってものが
感じられないわ

ちょっと待てや！
！
さっきから聞いていればウチのエースを好き勝手言いやがって
女王キセイ蟲がナンボのモンなんや！
そうですよ…！星乃さんは炎城さんさえ居れば もっともっと強いんです！

そんな戯言
信じられると
思うのかしら？

それじゃあ
ウチらが勝てたら
その言葉 撤回
してもらうで？

面白い…

どうやら貴方達には
〝理解らせ〟が
必要みたいね

ヒュッ

はああ～っ！

ボクだって！
だっ
べしっ
のだ〜っ！
まだまだ…
ぐいっ

黒雲母…今こそ二人の力を合わせて女王キセイ蟲をやっつけるわよ！

そんなこと言って…結局は貴方が主導権を取り戻したいだけでしょ？

その手には乗らないわ…

く…
やっぱり
一筋縄じゃ
応じないわね…

こうなったら
やっぱりアレ
しかない…！

だから…
ドクン
ん…
すっ
コレの意味もわからないはずす…
ドクン
ドクンッ!!
後は想像するだけ…

思い出すのよ…
今までの経験…そして——
くにっ

その先の
妄想を…

!?
ぱああああっ

何これ…
雲母の仕業…？

！
ふわっ

ぷはっ

な…何のつもりよ雲母…!?
ばっ

あなたのHネルギー
取り返させてもらったわ
ぱぁあっ
これでわかった…？
私は自分の素質を認めたのよ
スゥウゥッ
!?
やだ…
消えたくない…

だってあなたはキセイ蟲の所為で切り離されただけの
私の一部なんだから

カッ

それじゃあ行きなさい

炎城烈人を助け出しに

目が覚めたみたいね

キセイ姫!?

人間的に言うと
〝愛の巣〟って言うんだっけ？
ギシッ

Extra Gallery

番外ギャラリー

第54話
覚醒

はあっ はあっ…

ふふ…

姫の口撃にまだ耐えるなんてしぶといわね

そんなに頑ななら こっちにも 考えがあるわ

!

!?

姫には人間に挿入すると感情を読み取れる触手があってね

アナタのツボだって理解っちゃうんだから

うねうね

そっ…それで一体 何する気だ…？

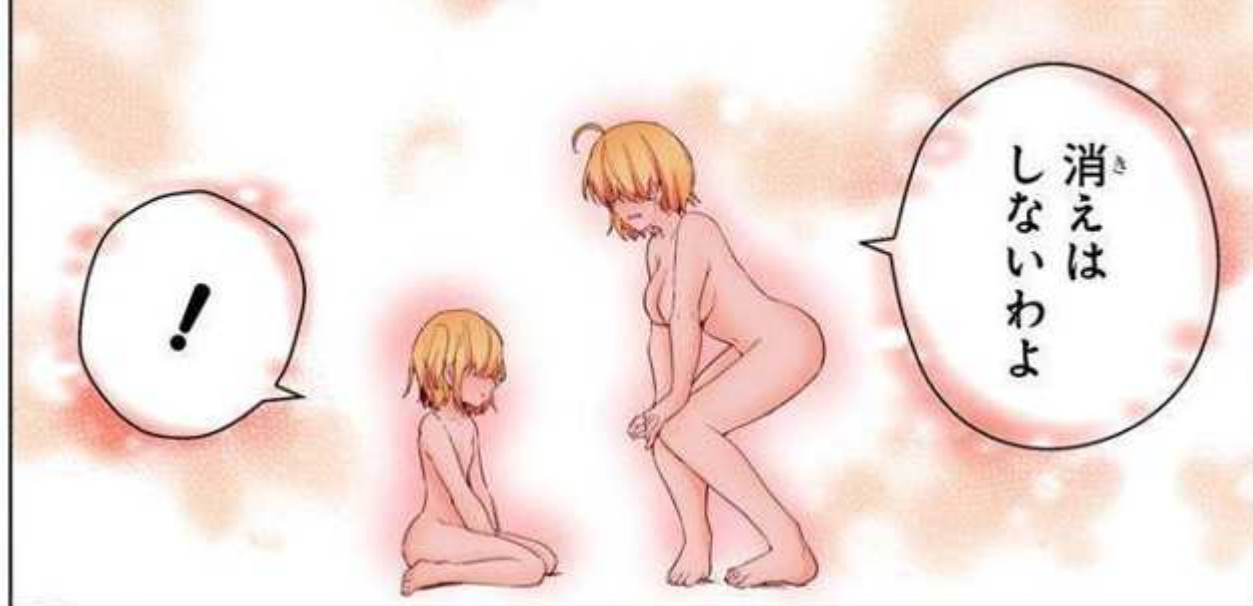
大丈夫痛くしないから

やめっ…

あっ

ずんっ

入って来てる…
俺の中に
キセイ姫が…

まるで…

ズ
ッ
はあっ
はあっ
なるほど そーゆーことね♪
あの星乃雲母を待たせてるからこんなにも強情だったの
!?
星乃に手を出したら ただじゃ済まさねーぞ…！
大丈夫大丈夫 姫の狙いはもうアナタだけだから

それにもっと良い情報もあったしね

…？

クリスマス？って言うんだっけ？

一年の内で一番人間のHネルギーが豊富な日って

そうなれば
もちろんアナタも
星乃雲母と一緒に
過ごすなんて
出来ないわよねー

そんなことは
させるか…

出来れば使いたく
なかったけど こんな
状況だとそうも
言ってられない…
もしもの時の
為に考えていた
俺の技を…

そこまで
言うなら見せて
やるよ…
俺の頭の中の
Hネルギー

さあ…もう一度俺の中に入って来い…！
面白い
見せてもらうわよアナタの本気のHネルギー
ズ

パチ
スゥゥ
ここは現実ではないってことは起こることは全て俺の妄想ってことになるよな？
そうね
実際 姫達はただ横になってるだけ
それなら問題ないな
俺にもどうなるかわからないけどやるしかねー

師匠に教わった無装の法…
ガリッ
それに俺の妄想でチャヤチャの肉食状態を再現…
ドッ
肉食無装状態
ばっ

んっ♡
ふふっ中々獰猛な獣ちゃんね…
だけどその程度であんなにイキってた訳？

だけど…
いい具合に
Hネルギー
溜まってきた
じゃない…
それならもっと
興奮出来るように
サービス
しちゃおっかな

どう？
頭の中とはいえ
チームメイトをこうやってメチャクチャにするのは？

でも最後はやっぱり
星乃雲母が良いんじゃない？
むくっ
激しっ
ズれッ
ドクンッッ
んんっ

ズンッ〜
〜〜〜っ♡

はあっ♡
はあっ♡
！
しゅるるっ
満足したわ
ありがとう
炎城烈人…
た…
助かった
…のか？
ほっ
これで
繁殖の準備は
整ったわ

さあ
姫にアナタの種を頂戴
種って…
そ…そんなの渡せる訳ねーだろ…！
ダメ…もう我慢できない…
うずうず
どうしても嫌と言うなら…

力ずくで奪うだけよ

※時速60km
ギャギャギャッ
きゃっ
あら 間に合わなくなって困るのは貴方達の方じゃない？
ちょっと！こんなにスピード出す必要ある!?

炎城烈人が
あの子を
満足させたら
全てがお終いよ
！

それって
どういう
意味よ…？
気に
なったことは
なかった？
我々には
メス型しか
居ないことに
てか なんで
アイツが助手席
なんや…

だから我々の祖先は
生命の居る様々な
星を巡っては
各星に住むHネルギーの
最も優れた種族のオスと
交わることで ここまで
繁栄してきたのよ
姿がそれぞれ
異なっているのは
その所為でもあるわ

でもそれが
今回の件と
何の関係が
あるのよ
鈍いわね

そのオスに選ばれたのが炎城烈人だって言ってるのよ
!?
そして姫を満足させたら最後…
繁殖モードに入り力ずくでもオスの種を奪おうとしてくるはずよ
そうなったら昂りを収める為にも戦わざるを得ないわ
いや種って…つまり…
黙って
でもなんで女王のアナタは協力してくれるの…？

………
貴方達なら
〝狩り〟と〝耕作〟
どちらが楽に
食料を調達
できる？
そりゃあ
耕作の方が まだ
楽だと思います
けど…
やったことが
ないので
どちらとも…
それじゃあ
その2つと無尽蔵に
料理の出てくる
高級レストランと
だったら？
私はそれの
為に協力してる
だけよ

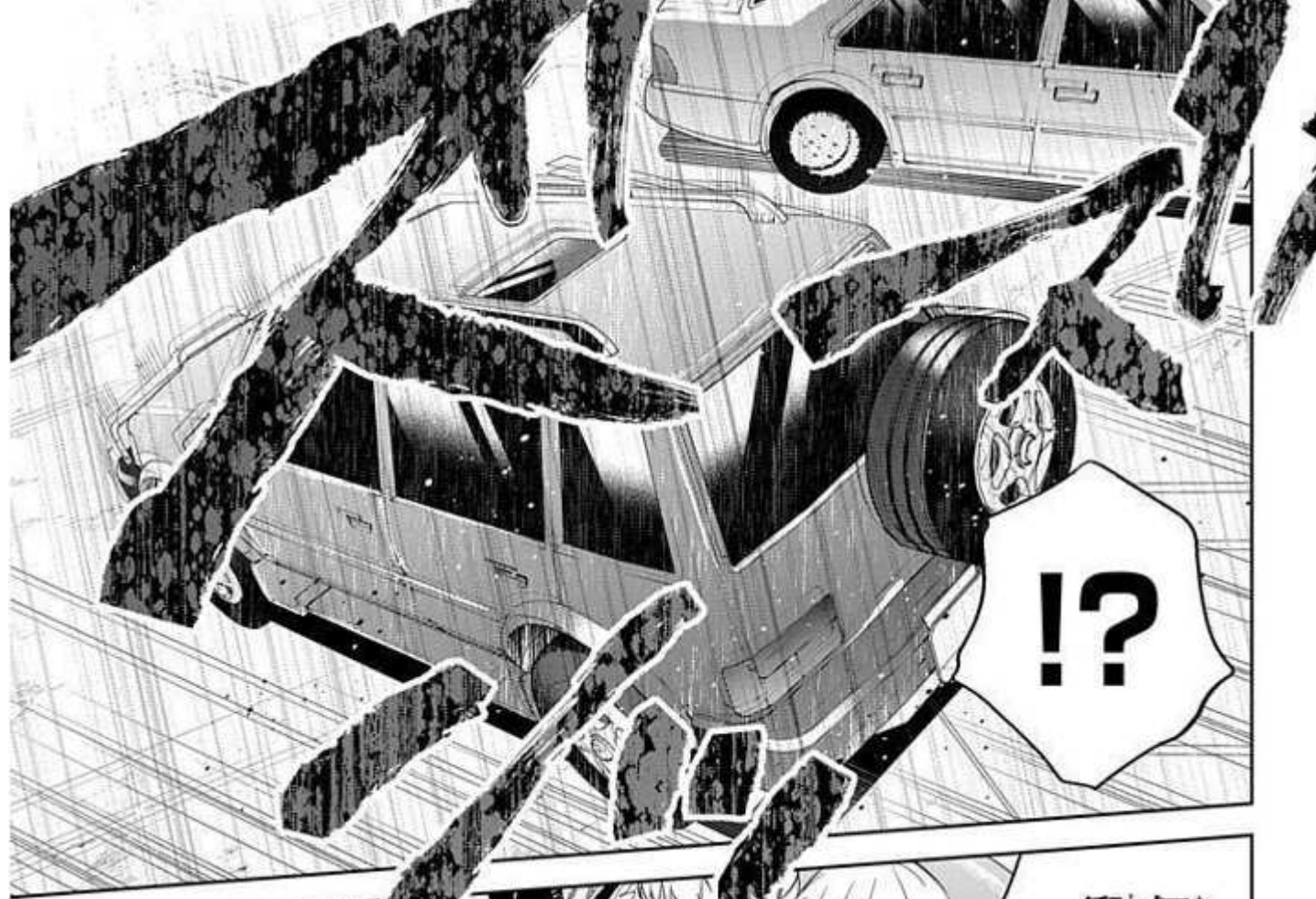
もしあなた達エグゼロスが定期的にHネルギーを提供してくれるのならの話だけど
誰も好き好んで生態系の頂点に喧嘩売りたくはないもの
いいわ
それで私達の平和を脅かさないと約束するなら
でもそれも姫が繁殖しなければの話
!
もしまたキセイ蟲の数が増えたら今度こそレストランじゃまかないきれないわ
そんな…

!?

何…今の衝撃…!?

地震か…?

オオオオ
オオオオ

オ
オオ

ワーッ
ワーッ!!
どうやら間に合わなかったみたいね…
あんなの倒せるの…?
まさかこんなに大きいなんて…
!
炎城…?

私達も加勢に行かないと……！

せやな…ウチらも行くで！
やめておきなさい

あなた達が行った所で太刀打ち出来る相手じゃ無いわ
なっ…
そんなことやってみいひんとわからんやろ！

さっき4人がかりで私に歯が立たなかったことを忘れたの？
うっ…

で…ですけど…
私達だって黙って見てられません！

白雪さん…

……

だったら宙達も強くなればいい
！

さっき雲母ちゃんに言ってたよね「恥じらいが」足りないって
だったら恥じらいを持てばいい…

へぇ どうやって？
こうするの
するっ
初心に帰って今回XEROスーツは封印しようと思って
そっ… 宙ちゃん 何やって——
それに雲母ちゃんを助けた時も この方法使ったから

それに自分が何でエグゼロスになったかを思い出せば
絶対に負けられないでしょ？

そ…
そう言われると
スーツの前は
私達すごい格好で
戦ってましたね…
ドキドキ
まぁ確かに あの頃は
ドキドキがハンパや
なかったからな
スルッ

ま…まさか本気じゃないわよね…!?
私達はいつだって本気よ
それがヒーローってもんでしょ

はいっ

くんくん
うわー
この匂いめっちゃ強いキセイ蟲の可能性あるねー
んなの見りゃ分かるっつーの
どうする…？やっぱ止めとく？
あはは…ここまで来てそれはないでしょ…
あなた達…

ガオオッ
うおっ
ズバッ
だから話を聞いてくれキセイ姫っ！
俺とお前とじゃ種族が違うんだから繁殖なんて出来ねーんだよ！

そんなことはない…

そうやって我々は繁殖してきたんだから

!? どういう意味だ…?

知る必要はないっ!

うおっ!?

そもそもなんで俺なんだ!?

お前だって好きでもない奴と繁殖なんてしたくねーだろ!

「好き」などと言う感情は人間が勝手に作り出したモノ…
この宇宙の他の生物全ての繁殖の選定基準は

強いか
弱いかよ

パラパラ
く…


ふふ…
やはりこの姿の攻撃を食らってもまだ生きていられる程のHネルギーの持ち主…
ますます欲しくなってきた


………まるで人間なんて眼中にないみたいな口ぶりだな…


じゃあなんでお前は人の形に擬態してたんだ…？
！

本当は人間のこと
理解したいと
思ってるんじゃ
ないのか？

そんな訳
ないっ！

知ってた？
この星の昆虫には
交尾中にメスが
オスを食べる種が
居るんだって
そう
なりたい？
俺だったら…
死んでも好きでもない
相手と繁殖行為なんて
しないけどな…
ギリ
ギリ
それじゃあ
死んでから
種を頂くことに
するわ
とは言った
ものの…
俺も
Hネルギーが
尽きてきた…
ああ…
ついに星乃の
幻聴まで…
コラ
炎城っ
何腑抜けた
顔してん
のよっ！

『ゆらぎ荘の幽奈さん』著：ミウラタダヒロ／集英社 単行本24巻への完結記念寄稿イラスト

# 最終話 エグゼロスよ、永遠に。

暁ちゃん さっきの地震 大丈夫だった…？

うん 平気平気

嫌な感じがする…
オオオォオォオォォ

お前ら…！

炎城っ！大丈夫!?
いや…
ちょっとキセイ姫の説得に失敗してこの有様だ…
状況を見るにそうみたいね…
邪魔しないでっ！

わっ！

やっぱり怒ってます…

どんな生物も交尾を邪魔されると一番怒るっていうからな

オレも炎城に
良いとこ見せる
チャンス…！
すっ
Hネルギー
開放
ぼっ

すごい…叢雨さん…

！

効いてない…?

やっぱりHネルギーが吸収されるからなんでしょうか…?

助けて紫子ちゃん〜っ!

お前ら…

キャーッ

ズバッ

オラッ

これじゃあいくらやってもキリがないです…

どうにかして本体に辿り着かないと…

ここは全員攻撃を合わせて道を作るしかないようやな…

それじゃあ行くで

ウチらのHネルギー全部食えるもんなら食ってみろ！

ばッ
必殺
卍崩し

ゴロッ
昇天の閃光
ドドドドドド

私も行きますっ
すぅぅっ

ソフロロジー砲

私も…
待ちな星乃雲母！
！
はあっ…
はあっ…
お前が今ここでHネルギーを使ったら誰が本体を倒すんだよ
触手の相手はオレ達に任せてお前は炎城を助けに行って来い
叢雨さん…
ビュッ

ガバッ
こっちのことは
良いから
行け雲母っ！
オレの活躍も
炎城にちゃんと
伝えとけよ
ありがとう
叢雨さん…

しっかりしなさいよ炎城っ

！星乃…

それとも私の返事も聞かずに死ねる訳？

誰かと思えば星乃雲母か…
そんな訳…ないだろっ!
ぐっ
あの程度のHネルギーだったお前が私に勝てると思うの!?

炎城に返事を伝えるまで…

私も同じ気持ち
だって伝える
まではね…

そんなこと
聞かされたら…
このまま
捕まったままじゃ
いられないな…！
ぱぁぁあっ
ぐぐぐぐっ
!?
こいつ…
まだこんな
力が…
ばっ

星乃…さっき言ったこと…本当なのか？
ッ!?
ドキッ
とっとにかく話の続きは無事に帰ってから…！

ああ

それじゃあ
さっさとあいつを
倒すとするか

ぱぁあああっ

そんなの
駄目…

ソイツは
私の物なん
だから〜っ!

ぐあっ

ぎゅっ
何…これ…？
前の時とは全然違う…
はあああっ!!

これが
この二人の…
本当の
Hネルギー…

パアアアッ

今の光って…

ああ…

雲母がやったみたいだな…

わかったか
キセイ姫…
これが同じ
気持ちの二人の
Hネルギーだ
カァァッ
それに
人間っていう
生き物はな
種の生存本能よりも
自分の感情で子孫を
残す生き物なんだよ

もしお前が本当に俺と交配したいのなら
力ずくじゃない方法で俺を惚れさせてみるんだな

ママ…チャチャ…

あ…姉上…人間は敵じゃないのだ…！

そ
つまり私達は
人間に〝キセイ〟
するのではなく
人と〝キョウセイ〟
する道を選んだ
ってことよ
ちょっと
ジロジロ
見ないで
よ…！
みっ
見てねーから
…！
……
どうやら
私達はお邪魔の
ようね
それじゃあ
この子のオシオキが
あるから
もう行くわね
へっ!?
しゅるるるっ

それじゃあ
これからも
よろしくね
お二人さん♪

ばさっ

ごめんな
さい～っ

！

これからもって
一体どういう
意味だ…!?

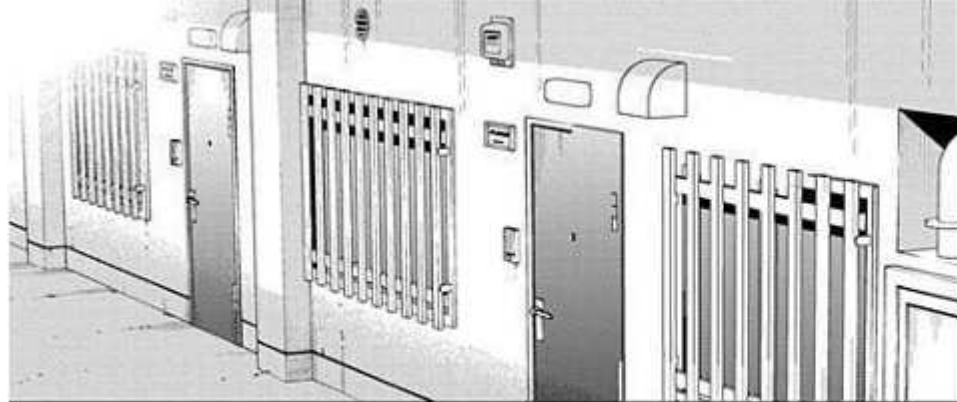
バサッ
バサッ
終わったの…？
ああ…今回こそ多分な…
ってそっちの方は見てないからな!?
いいわよ別に…

だって…これから
もっと見ることに
なるかもしれない
でしょ？

星乃…

ドキッ

たっ

って倒したばっかりやってのに まだギンギンやないか二人とも…
そっそう？
なんか怪しいぜ…
ギギン
そういえば誰か着替え持って来てない…？
急だったから持ってくるの忘れたかも…
まぁでもサイタマ支部はそんな物要らないんじゃない？
んな訳ないやろ!!
まぁまぁ二人とも…
こうして…ある条約を結び
人間とキセイ蟲との争いは終わった

先行ってるぞー

俺たちエグゼロスの活動は実家に帰っても続いていた

待ってよお兄ちゃんー

女王キセイ蟲の指示に従わず ゲリラ的に人間のHネルギーを狙うキセイ蟲が絶えることはなく

おはよ〜
烈人〜
だきっ
!?

何すんだよ
ヒメ!?
何って 好き
アピールしてる
だけだけど?
ひそ
ひそ

自分で
言った
でしょ?
自分を
惚れさせて
みろって

わかったから
離れろって!
こんなとこ
星乃に
見られたら…

おはよう炎城くん…
宵月っ星乃…!?
ギクッ

これは違うんだ…!
?

放課後――
星乃…
今朝の事だけど…
あれはなんというか事故みたいなもんで…
別に嫉妬するようなことじゃないでしょ？
それはそれで悲しいというか…
だって彼女は私だけなんだし

その代わり
今日の日課は
サービスして
貰うわよ

そう…実はキセイ蟲との終戦の条約というのは

ドキドキ

俺たちエグゼロスが定期的にHネルギーをH×EROSに溜め

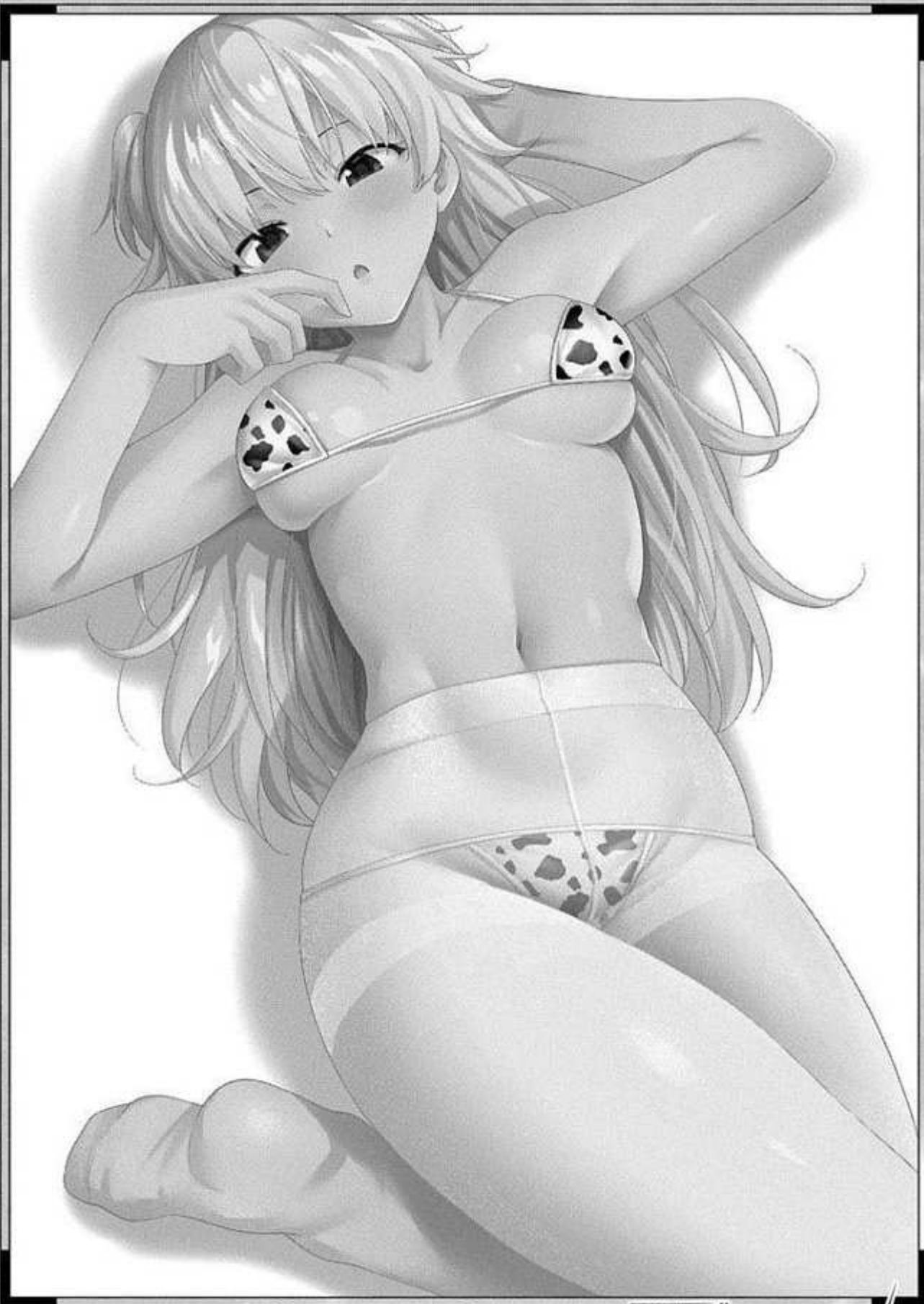
それを提供する代わりにキセイ蟲の技術を提供して貰うというものだった

けど二人っきりの時でもHネルギーを溜めるためにこれを着けてなきゃいけないなんて
ちょっと監視されてるみたいでうんざりだよな
確かにそうよね…
それに義務ってなると少し興醒めしちゃうし…
ス…
それじゃあさ…
こないだ提供したばかりだし今日くらい…
誰にも強制されずにHネルギーを感じても良いよね？

んっ
あのキセイ姫との
戦いの日から
星乃の性格は少し
変わったと思う
はらっ
ただ単に
昔の星乃に
戻ったという
訳ではなく
当時の星乃が
成長したかの
ような
今と昔が
混ざり合った
かのような

ませていた
頃の星乃も

それを隠そうと
していた星乃も

そしてそれを
受け入れた
星乃も

私もだよ
烈人
ドクンッ

はぁ、
はぁ〜
もしかしたら今までで一番Hネルギー感じたかも…
そんなこと聞いたらキセイ蟲が悔しがるだろうな…

ヴヴッ

野良キセイ蟲の反応だ…！

！

急いで行かないとっ

結局 昔と全然変わらないみたいね

キショショッ
お前らからは幼いながら極上のHネルギーの香りがする…

そういう若いHネルギーが私は一番好物なのよっ

バチィッ

誰だっ!?

エグゼロスだ

ド級編隊エグゼロス 12（完）

Extra Gallery

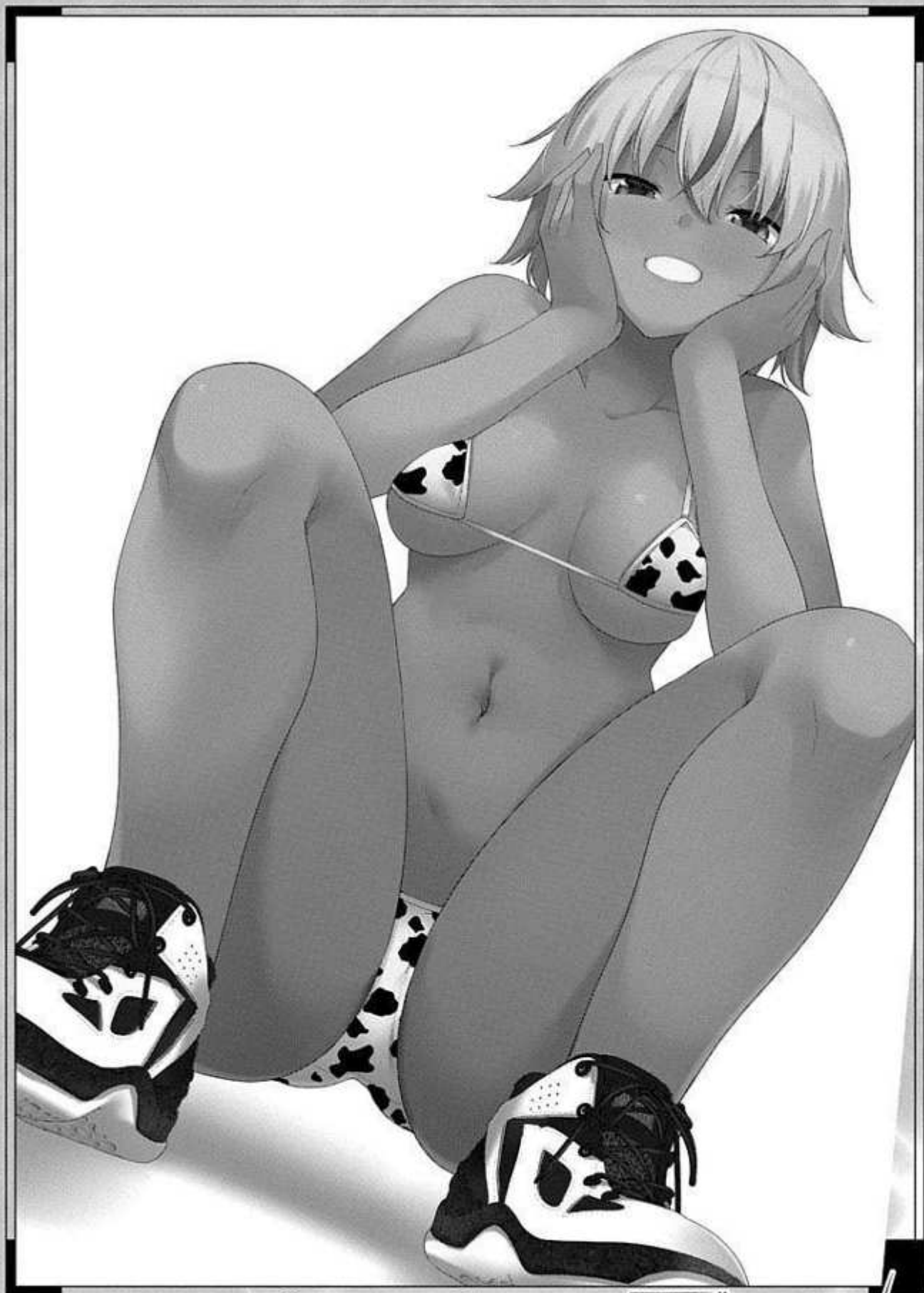
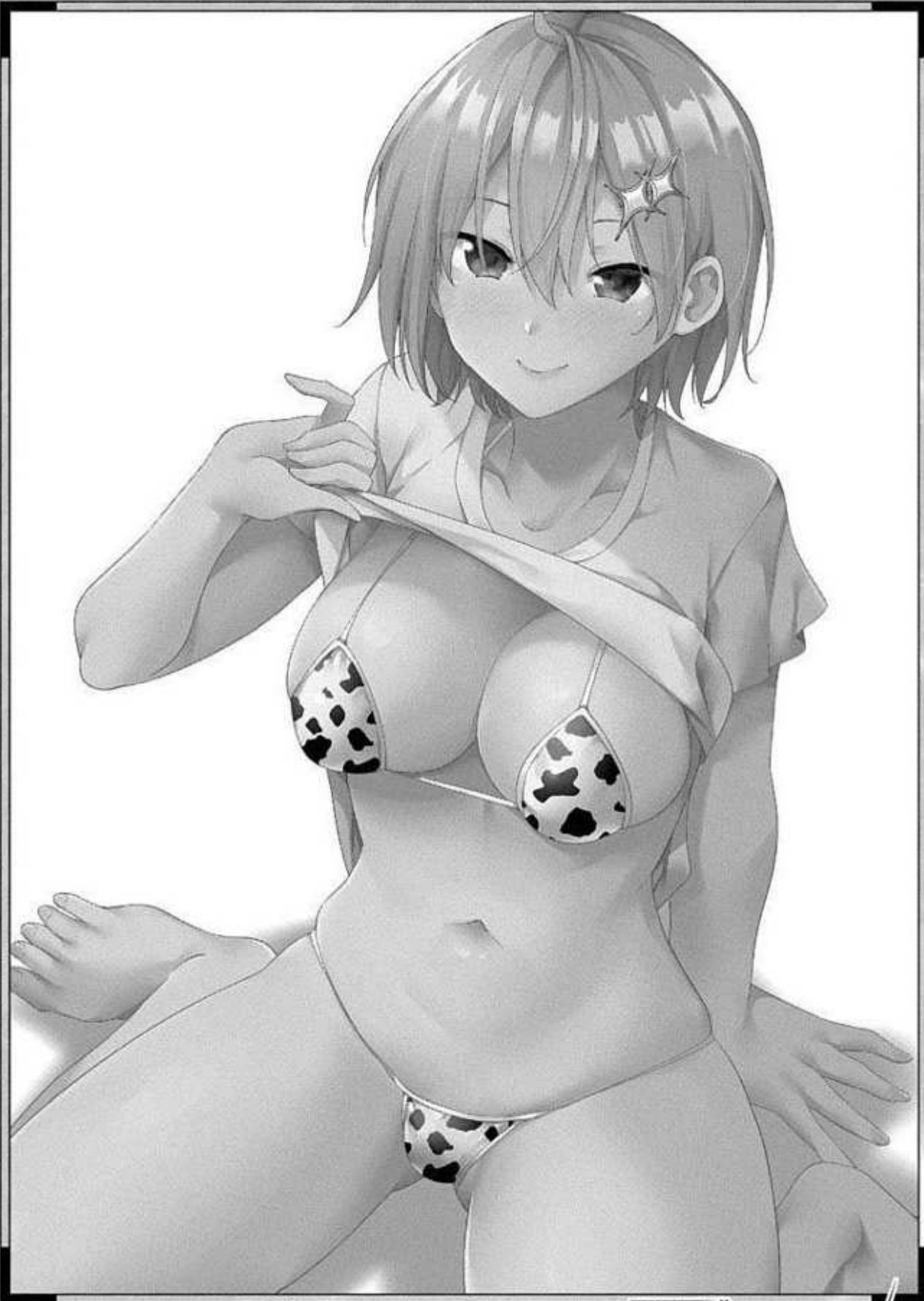
番外ギャラリー

Extra Gallery

番外ギャラリー

Extra Gallery

番外ギャラリー

HXEROS

# あとがき

まずはこの度は4年間のご愛読ありがとうございました。
ここまで続けて来れたのも、ひとえに読者様達のお陰だと思います。
まさか自分でもこんなに続けられて、しかもアニメ化までされるなんて思ってもみませんでした。
実を言うと、このエグゼロスという漫画は本来、連載会議用に描いた漫画ではなく、
連載会議の待ち時間に趣味で描いた物が巡り巡って連載にこぎ着けたという経緯がありました。
そんな思いがけず連載が始まった漫画なので、もしかしたら数年後に
フラッと個人的に続きを描くこともあるかもしれませんから、
その際は是非また読んで頂けたらと思います。
ともあれ、こうして最後まで自由に描かせて貰ったことには感謝しかありません。
その恩返しのためにも、
次回作はエグゼロスよりも売れる漫画を描くつもりでやっていきますので、
今後も応援の方よろしくお願いします。

きただりょうま

ATOGAKI

ド級編隊エグゼロス セミカラー版

12巻

きただりょうま



初版発行　　　　2021年
デジタル版発行　2021年

発行所　集英社
http://www.shueisha.co.jp

この作品は、著者カラー原画に加え、著者の原画をもとに集英社で一部デジタル彩色を行った特別編集版です。

EXTRA PAGES

背表紙・カバー折り返し

※表記はコミックス発売当時のものになります。

本体・裏表紙

※表記はコミックス発売当時のものになります。

本体・表紙

※表記はコミックス発売当時のものになります。